食品名	単位	数量(入数)	値段(売価)	単価	廃棄律%	原材料重量g	摂取量	支払額¥	備考
バター	g	200	338	1.690	0	30.0	30	51	
バナナ(5本x140g)	g	700	158	0.226	40	350.0	20	79	フィリピン
ピーマン	g	100	97	0.970	15	11.8	10	11	
水菜	g	200	159	0.795	15	35.3	30	28	
ミカン(温州)	g	1000	398	0.398	20	125.0	100	50	
味噌(米)淡色辛みそ	g	750	198	0.264	0	48.0	48	13	マルコメ
ヨーグルト(プレーン)	g	450	178	0.396	0	100.0	100	40	
レモン	g	80	45	0.563	3	10.3	10	6	
自家製トマトソースのスパゲティ+海老、貝柱トッピング	*皿*	*1*	*523*	*523.000*	*0*	*—*	*1*	*523*	*ジョナサン*
おすすめセット(サラダ&コーンポタージュスープ)	*セット*	*1*	*313*	*313.000*	*0*	*—*	*1*	*313*	*ジョナサン*
グラスビール	*杯*	*1*	*378*	*378.000*	*0*	*—*	*1*	*378*	*ジョナサン*
2日間合計								2511	

1週間合計¥7689x4週=		30756	
2日間合計		2511	
1ヶ月間(30日)合計 ¥		**33267**	

③子どもを持つ親

③子どもを持つ親　（調査実施状況）

子どもを持つ親　男女グループの実施状況

	事例グループ		確認グループ	最終確認グループ
日時 会場	【子どもを持つ親、女性】 2011 年 8 月 23 日(火) 10:30-16:00 三鷹産業プラザ	【子どもを持つ親、男性】 2011 年 8 月 24 日(水) 10:30-16:00 三鷹産業プラザ	【子どもを持つ親、男女】 2012 年 3 月 1 日(木) 13:00-16:30 三鷹産業プラザ	【子供を持つ親、男女】 2012 年 3 月 16 日(金) 13:00-16:00 三鷹産業プラザ
参加者	女性　7 名	男性　7 名	女性　5 名、男性　5 名	女性　5 名、男性　5 名
モデレーター	阿部、上枝、山田	阿部、上枝、山田	岩田、岩永、上枝	阿部、上枝、山田
記録者	山田、進藤、福山	上枝、進藤、福山	岩永、上枝、進藤、福山	阿部、卯月、進藤、福山
掲示物	・ MIS 調査の概要 ・「基礎的生活」の定義 ・ 住居の間取り	・ MIS 調査の概要 ・「基礎的生活」の定義 ・ 住居の間取り	・ MIS 調査の概要 ・「基礎的生活」の定義 ・ 住居の間取り	・ MIS 調査の概要 ・「基礎的生活」の定義 ・ 住居の間取り
配布物	・「調査の流れ」「基礎生活の定義」 ・ 価格付き品目リスト ・ 小学 5 年生献立表	・「調査の流れ」「基礎生活の定義」 ・ 価格付き品目リスト ・ 小学 5 年生献立表	・「調査の流れ」「基礎生活の定義」 ・ 価格付き品目リスト ・ 30 代母親献立表 ・ 40 代父親献立表	・「調査の流れ」「基礎生活の定義」 ・ 価格付き品目リスト ・ 30 代母親献立表 ・ 40 代父親献立表
機材	大判台紙付きメモパッド	大判台紙付きメモパッド	大判台紙付きメモパッド	大判台紙付きメモパッド
事務局	速記者 1 名、事務 2 名	速記者 1 名、事務 2 名	速記者 1 名、事務 2 名	速記者 1 名、事務 2 名

③子どもを持つ親　（調査報告）

母親のニーズ　事例グループ　メモ（感想等）

実施日：　２０１１年8月２３日（火）１０：３０～１５：４５
場所：三鷹産業プラザ７階
参加者：7名（遅刻・欠席者無し）
モデレータ：阿部（前半）、上枝（後半）、進藤、福山、山田（記録担当）

事例：加藤由美さん、３８歳、夫健一さん（４０歳）と子（小学５年生、公立小学校）と三鷹に在住。フルタイムで働いている。健康。

阿部彩分

1. 事例において、子どもの年齢や数、フルタイム就業をセットしたため、ambivalent な部分が少なくなった。特に、就労状況は重要であった。「加藤由美さんは、フルタイムで働いているから・・・・」との発言が非常に多く、この事例が働いていない母親、または、パートの母親に当てはまるかどうかは、相当疑問。また、フルタイムといっても、キャリア的な職業を想定している模様であった（名刺入れが必要、等）。
2. しかしながら、参加者からは、さらに事例を細かい設定してほしいという要望があった。特に印象的であったのは、フルタイムで働く理由、が欲しい、とのこと。夫の収入では家計が賄えずやむをえず働いているのか（中学受験をするのかが具体例として出されている）、それともキャリア・ウーマンで自分自身のためにも働いているのかによって、全然違うとのこと。おそらく、就業状況だけではなく、職種によって、女性のライフスタイルがまったく異なると感じているのであろう。
3. 子どもの性別は指定しなかったが、あまりその点は問題にならなかった。子どものニーズとして既に決まっているもので議題にあがったのは、子ども部屋、メニュー、旅行、など。
4. 母親自身の交友関係や、自分自身のためのおカネについては、しぶり気味。
5. 洋服はかなりアバウト。自分たちの持っている数とあまりに違うからか。
6. 全体的に、参加者は、所得が高い層と見受けられた。
7. あまり議論となるアイテムがなかったので、時間内に収まり、殆どすべてをカバーできた。参加者の中で、反対意見を言う人が少なかった。
8. 夫の収入を設定してほしい、という要望が複数あった。（２との関連か）
9. イギリスの MIS ででてきた保育費用（ベビーシッター代）は、議論にあがらず。全体的に、子どものスケジュールや活動は、議論にならなかった。子ども（小５）は、１人で家でお留守番できるとの前提。
10. 子どもが中学受験をするのか、どうか、を設定してほしいとの要望があったが、２との関連での発言。子どもの中学受験のための、母親のニーズの関連ではない模様。

11. 母親が就労していて、次の日のお弁当に持っていくことを想定すると、子どものメニューが変わるかもしれない（シチュー、鍋など、もっていけないメニューがあるため）。
12. イギリスでは出てきそうな結婚していることによる妻の費用（夫へのプレゼント、夫婦で外食する、等）は、出てこなかった。子どもが外食している週末の昼でさえ、夫婦で外食するのは却下された。
13. 「フルタイム」で働いていることが、時間的制約を、かなり全面的に押し出している。「時間がない」から、趣味は持てない、「時間がないから」○○はしない、・・・・という発言多数。

山田篤裕分

1. 全体的にスムーズに進んだ。参加者は自分の経験・生活感覚に基づきながらも、意見が分かれそうになると、「加藤由美さんに立って考えるんですよね…」というように、MIS プロセスをよく理解した自問自答をしてくださる参加者が多かった印象。
2. 午後 3 時くらいから、参加者の疲労が強くなっているようであった。やはり、事例グループの時間は長い。
3. 参加者は高所得層に偏っている様子。化粧品や理容などの価格設定・メーカー設定がかなり高めのように思われる。昼食時間の会話に基づくと、中高一貫校に通わせている（たぶん中学受験をしたと思われる）参加者が何人かいらした。また「三鷹という設定だと庶民のレベルより生活レベルが上になってしまう」というご指摘もいただいた。
4. 昼ごはん、休憩時間中にもコミュニケーションを互いにとる等、チームとして素晴らしく、発言は万遍なく参加者全員により行われ、全体的にスムーズに進んだ。二度ほど、左右が分かれて議論してしまう場面があったが、それほど深刻にはならなかった。
5. 献立については、子ども用のメニューを出発点として、かなりスムーズに行ったが、それでも時間がかかり、献立部分については予定より数十分オーバーした。この献立メニューがなかった場合、時間に余裕ができたかどうか疑問。
6. 参加者ご自身に、フルタイムで共働き経験がある人は少ないかも知れないとの印象を受けた。参加者の条件として、単純に 18 歳未満のお子様をお持ちという条件以外に、フルタイムで共働きの生活をご経験という条件を付けくわえるべきだったかも知れない（実際、そのように働いたことがないので分からない、という話が 1 人から昼食時間中にあった）。
7. 休憩時間中に、この間取りで洋服ダンスや本棚を置くと、かなりスペース的に制約されるので、このような間取りに実際に住んでいる人の意見を直接聞いた方が、生活上のいろいろな工夫が分かるのでは、という感想が左側の 3 人から出されていた。
8. 日本の場合だと、WLB がきちんと取られている企業が少ない、というのが一般市民の感覚であり、とにかく時間的制約が夫婦できつい、という暗黙の前提で話し合ってい

た（週末は掃除をしなくてはならないので、子どもがマックに行っている時間に、夫婦で外食、というような状況にはならない、などの意見などが、その例）。

9. フルタイムという前提条件をつけるか迷ったところもあったが、そうした限定を加えたことは、この段階では少なくとも結果的に良かったように思う。その前提があるお蔭で、生協やネットスーパーの利用などの買い物場所、朝の献立の簡略化、週末の夫婦の外食の可否など、さまざまな論点が集約されやすかったように思う。
10. 時間的余裕ができたので、このMISに参加した印象をうかがうと、むしろより細かい設定（所得階層や自分のキャリアのために就労しているのか生活の為に働いているのか）を求める人が多かったことが印象的である。所得階層によって最低必要な基礎的生活に含まれてくるものが異なるのではないか、というご意見は、こちらの説明方法にも工夫の余地があるのかもしれないが、「所得に関わりなく、この事例にあてはまる人に誰にでも最低必要な基礎的生活であること」を参加者に合意していただくことの難しさを感じた。
11. 次のグループで確認すべき事項
    - 生協で購入することで同意したが、生協の生鮮食品などは高めで品質はそれほど高くないように思われるので、本当にすべて生協で購入してしまうのか、要確認。
    - 夕ご飯について（お酒と外食の話に移行し、夕ご飯についてきちんと議論できていない）
    - ウィルス対策ソフトやビジネスソフトウェアの必要性（仕事で使用することを前提にしていたので）について
    - 文具について
    - 衣類・家電製品等の購入場所、耐用年数について
    - 子ども用の部屋がない、という前提について驚きの声が多数あがっていた。子どもをどこで勉強させるのか、ということ（現在ダイニング机で代用）について要確認。
    - 間取りが決まった後、家具の大きさが適当か、要確認。
12. 次のグループで留意すべき事項
    - 時間節約の為、事前にリストを配布する重要性は参加者からも指摘されたので、これについては検討した方が良いように思われる。
    - 参加者の条件について、フルタイムで共働きした経験などを含めるべきか、要検討。

上枝朱美分

1．献立メニューでお昼のお弁当に焼きうどんや焼きそばを作っていくと言っていたが、朝食とは別に作る時間があるのだろうか。子どもは学校で給食を食べるので、フルタイムで働く妻がお弁当を作るのであれば、夫と二人分作るのではないだろうか（父親

グループではお昼は外食かお弁当を買うであったので、世帯にするとき調整が必要)。最低生活を送るには料理がある程度できることが前提になっていると感じた（単身女性も同じ)。またネットでの購入などは、情報を得られる環境（さらに情報収集能力も必要）でなければならない。

2．住居で住む地域を選ぶとき子どもの教育を優先して考えていた（七小の学区がいい)。教育熱心という感じがした。

3．現在共働きをしている人だけに集まってもらうと結果が違ったのかもしれない。専業主婦と共働きでは、時間の使い方や持ち物が違うと思う。

以上

③子どもを持つ親　（調査報告）

2011年8月24日

父親のニーズ事例グループメモ（感想等）

場所：三鷹産業プラザ7階
日時：2011年8月24日（火）10：30～16：00
参加者：7名（遅刻・欠席者無し）
モデレータ：阿部（前半）、上枝（記録担当）、進藤、福山、山田（前半・後半）
事例：加藤健一さん40歳、妻由美さん（フルタイム就労）38歳と子（小学5年生、公立小学校）と三鷹に在住。健康。

山田篤裕分

1. 「事例：加藤健一さん」の立場で、最低必要な基礎的生活について考えていく、というプロセスについて、参加者は皆、よく理解して下さっているようであった。
2. 交際関係費や通信費などで、他の参加者と比較して、常に低い額を提示する参加者も1名いたが、とくにその低い額を強硬に主張することなく（それは事例「加藤健一さん」の位置づけに関し、参加者個人のニーズと同等ではない、ということを参加者全員がよく理解して下さっていることに由来するものと考えられる）、合意は会議全体を通じで円滑になされた。なお、その参加者の生活背景として、かなりの額のプレゼントを妻にしていること、貯蓄額がかなり大きいこと等が、後の議論で判明した（つまり、そのためのやりくりの影響が、他の財・サービスの選択に表れていた）。
3. 台所用品を列挙した後（昼食後）あたりから、参加者全員の集中力がかなり落ちていったように見受けられた。午後の休憩後すぐのところにAV関連機器を持ってきて（保健医療・衛生関係を後回しにした）、関心を持ち続けられるような工夫を行った。交際費関係の議論で、再び集中力を取り戻してくださったように見受けられた。
4. テレビの有無とPCとの補完関係について、男性単身と同様に時間がかかることが予想されたが、テレビの有無については（参加者が、時間的に午後の休憩後ともなり疲労を感じていたせいかもしれないが）ほとんど議論がなく、テレビ有で決まった。部屋の間取りという制約が強く働いたからかもしれないが、男性単身では議論の時間が多く費消されたベッドか布団の選択の議論もほとんどな布団で合意された。
5. 時間的には足りず、積み残しアイテムが残ってしまった。具体的には、防災用品や身の回り品（鞄、財布、名刺入れ、ハンコ等）や、女性親グループには尋ねることができたこのプロジェクトに対する感想を聞くことはできなかった。今回、（特に衣服関係で）耐用年数や購入場所などについてやや丁寧に議論したことや、女性親グループでは尋ねられなかった文具について尋ねたこと等が要因であると考えられる。やはりMIS をすでに一サイクルモデレータを経験していても時間配分の難しさを痛感させられた。

6. 交際関係費については、前日に行った女性親グループに倣い、参加者の回答を容易にするためと議論の整理のし易さを考慮し、冠婚葬祭、会社関係、子どもの学校関係、とシチュエーションごとに尋ねる方式をとったが、結果的に積み上げ方式にようになってしまい、交際関係費総額として膨らんでしまった可能性がある。議論自体は、目論見通り、こちらの方がスムーズに、時間的にも節約できたように思う。
7. 教養娯楽費は、書籍、CD、DVD、お稽古事・習い事ということで個別に尋ねたが、議論の自然な流れの中で「まとめていくら位」というようにして、うまく一つの金額に合意できた。交際関係費と教養娯楽費の項目をどのように尋ねていけば、総額が膨らまず、合理的なMISに議論を集約できるのかは、引き続き課題である。
8. 母親では回答で来ていたPTA会費が父親では回答できなかったこと、母親では0円とされていた夫へのプレゼント代が、父親では年間 1 万円程度となっていたこと、昼休みや午後の休憩時間中、母親とは異なり、父親は携帯端末機をチェックしたり、本を読むなどしたりして会話が全くないこと、テレビは父親の方で相対的に大きめの画面で合意したこと、予備費的な積立金額は男性の方が数倍多いなど、ジェンダー差がうかがえる部分があり、興味深かった。これが、どのように男女親混合グループで集約されるのか興味深い。
9. 母親では家族単位での必要枚数（個数）、父親では加藤健一さん本人単位の必要枚数（個数）を答えているので、アイテム整理の際には注意が必要である。
10. 男親の方で「思い出作り」ということで、新たに市民プールへ年に 5 回子どもを連れていくイベントと、年に 1 回映画に連れていくイベントを入れることになった。このニーズを思い出作りの主体として、父親からのニーズと考えるのか、子どもからのニーズと考えるのか議論の余地がある。後者なら、子どものMISはすでに確定させているので、これをMISのプロセス的に変更して良いのか、といった問題が生じる。前者の場合には「加藤健一さん」自身のニーズということでそうした問題は生じない。

以上。

阿部彩分

11. 参加者は母親グループほどでないにしても、「最低必要な基礎的生活」からは、かなり離れた生活水準の方々と見受けられた。貯蓄額を月々５万円という意見（最後は２万円？まで下がるが）にそれほど違和感もないようであった。しかし、貯蓄額については、４０歳子ども小学生という設定から、この時期は老後や子どもの教育費の蓄えが必要な時期なのかも知れない。
12. 「加藤さんは、４０歳だから」（「管理職になっているだろう」などもあり）という発言が数か所あった。２０－３０歳代ではOKなライフスタイル（例えば、弁当を毎日持ってくる、牛丼屋で食べるなど）も、４０歳だと「ちょっと恥ずかしい」という指摘があった。単身男性の事例と、今回の事例の違いは、子どもが有る無しの違いとい

うよりも、年齢の違いが大きいかも知れない。

13. 洋服の耐久年数が全体的に短いが、「２年ではいらなくなる」という指摘が多くあり、洋服の質の問題というよりも、「大きさ」の問題という感触。だとすれば、「基礎的生活」に「身体が大きくなる」を前提としてよいものか？（子どもだともちろん OK だが、大人では？？？？）
14. 「４０歳男性」ではなく「父親」個別のニーズとしては、上記の「市民プール」「映画」が出たものの、そのほかのアイテムはなかった。この二つも「子どものニーズ」なのか「父親のニーズ」なのか不明。PTA 会費は、パパ友（？）との交際費、子どもとのリクリエーション（キャッチボールのグローブ、運動靴、など。水着は出た）などのものは、挙げられなかった。これは、ひとつとして、参加者があまり子育てに参加していない層である可能性もある（妻がフルタイム就労という設定が、参加者からは想像しにくい）。個人的ではあるが、私の周りでは父親が野球チームのコーチをしたり、ボーイスカウトのリーダーになったりとかしており、相当費用がかかるが、これらはまったく出てこなかった（「基礎的生活」ではないとして、却下されたわけではなく、最初から思いつかなかったようだ）。同様に、子どもの性別もまったく議論に出なかった（男の子だったら、キャッチボールする等）。また、PTA 会費を聞かれても、「わからない」という答えであった。

以上

上枝朱美分

15. インタビューの時期の影響がある。寝具が少ないと感じた。夜は石油ストーブを消す設定になったので、寒いと思う。また、じゅうたんなども出てこなかった。
16. お中元・お歳暮や年賀状を出すかどうかなどは、世代だけではなく、時代による違いもある。30 歳半ばと 40 歳半ばでは意見が違う。

以上

③子どもを持つ親　（調査報告）

MIS　確認グループ（子どものいる親）　実施報告と感想

日時：　平成２４年３月１日（木）13 時～16 時
場所：　三鷹産業プラザ会議室
モデレーター：岩田、上枝、福山、進藤

岩田正美（日本女子大学）

1）品目入力リストの書き方

交際費、会費などについて、かなりややこしいので具体的項目で聞くのはまったくかまいませんが、丸める時に注意。また「その他～」とあるのは、あくまで大分類中、中分類中の「その他」のことなので、誤解の無いように。なお、以下は、モデレーターとして、混乱したので、念のため書いておきます。

●交際費　すべて一緒でも可

★贈与金（餞別、香典、見舞金、祝儀、）

★モノによるプレゼントや会食

★上記２以外の負担金　の統計局例示

○町内費・消防費・街灯費・青年団費・婦人会費などの町内の負担金的会費

○県人会費　同窓会費　遺族会費

○労働組合費 職員組合　など

●他の諸雑費（二つの◎は識別必要）

◎信仰、冠婚葬祭など

墓地管理料、賽銭、（香典、祝い金はここではない）

葬儀費用、納骨費用、挙式費用、七五三費用など

◎　非貯蓄型保険料

◎　寄付

●８８８の「諸会費」はあくまで教養娯楽費のなかの会費なので

教養的要素のあるクラブ費＋会費。PTA 会費はここではなく教育費へ

PTA やママ友つきあいなどは、交際費

８８８諸会費の統計局例示

③子どもを持つ親　（調査報告）

○子供会・老人会の会費
○ファンクラブ会費
○リゾートホテルのメンバーズ入会金

2）次回のやり方

次回最終ですが、かなり積み残してあるので、積み残しを中心にしてあとは、金額を確かめることに集中した方がよいかもしれません。品目リストの整備と、もう少し大きい版でもよいかもしれません。男性欄に、家族共同を色分けしておき、後でこちらが計算するときは家族合計欄を作れば良いのではないかと思います。

3）感想

基礎的な生活という理解がやはり難しいようでした。

前回に髪のカラーリングは家でやるとか、女性のお弁当にテイーバッグ持参などとなっていて「切り詰め」の感じがするが、それなら「節約生活」であって、必要なモノを「積み上げて」よいのか、というような発言がありました。私も、最賃や年金、生保の基準を考える上で参考になるような必要の積み上げというような説明はしましたが、結局、その疑 問は氷解しなかったと思います。

また、缶コーヒーは毎日の飲む、ビールは１缶では収まらない、ポテトチップスなども食べる等、自分の生活の実態がどうしても前に出てきてしまい「健康で、安心、安全」とはなかなかいかないようでした。

住宅について、なぜ賃貸なのか、ローンで中古を買った方が安いし合理的という意見もあり、これも日本を前提にするとなかなか難しい点です。

あくまで私の感想ですが、積み上げでやる場合はブラッドショウの「つましいけれども品格ある」生活というようなイメージのほうが、考えやすいように思いました。なお、今回参加者は、男性の年収高い、女性は主婦が多いという特徴もありました。

MIS　子どものいる親　確認グループ（３月１日）

上枝朱美（東京国際大学）

・「最低限必要な生活」を理解してもらうのに時間がかかった。また子どものいる男性、女性の消費を考えるのであって、子ども自身の消費は考えなくてよいことも何度も説明する必要があった。
・献立は、各家庭によって考え方がさまざまである。嗜好品もあるのでその点をどう考えるか。お菓子やアルコールについても一応の合意はした。

③子どもを持つ親　（調査報告）

・住居を考えるとき、家賃や設備等の情報を示さず間取りのみを示したら、意見がなかなか出なかった。親や友人を家によぶかどうか、子どもの成長も考えて間取りを選択した。
・一度決まったことが、変更になることが何度かあった。一つの品目にどれだけ時間をかけるかが難しい。
・子どものいる母親の消費は、やはり働き方でかなり違う。
・電池は、家電製品などによって必要な個数が変わってくる。どの順番で聞くかも考える必要がある。

③子どもを持つ親　（調査報告）

MIS　最終確認グループ（子どものいる親）　実施報告と感想

日時：　平成２４年３月１６日（金）13 時～16 時
場所：　三鷹産業プラザ会議室
モデレーター：阿部、山田、卯月、福山、進藤、上枝

卯月由佳（文科省）

実施報告

夫婦と小 5 の子ども 1 人の家族に必要な住居について話し合った。最初に、子どもに 1 部屋、親に 1 部屋の 2DK で十分だとの意見が出た。それに対し、来客用の部屋も必要、子どもの面倒をみにきている祖父母（両親共働きのため）が泊まれる部屋も必要とのことで 3DK という意見も出た。

子どもグループで小 5 には子ども部屋が不要と合意されたことをモデレーターが説明すると、やはり 2DK で十分というのが多数派の意見となった。賃貸であれば子ども部屋が必要になったときに引っ越す、たまの来客のために 1 部屋確保して家賃に余計払うことはできない（ママ友が来たときはダイニングで十分）、との意見が出た。

2DK とはいえ、単身者用の 2DK のように縦に部屋が配置しているのではなくダイニングからそれぞれの部屋に行ける間取りや、玄関からダイニングが丸見えにならないよう間仕切りが必要だという意見が出て、それにあてはまる間取りで一応合意された。

家賃約 12 万円（11 万円台）に対して高いといった意見や、駅から徒歩 16 分に対して遠いという意見は出なかった。

カメラの SD カードは、子どもの動画を残すため、最低 4G、数百円しか変わらないなら 8G あってもよいのではないかと、特に反対意見なく合意した。

水着の必要性については、子どもと一緒にプールに行くかどうかとは別に、1 つくらいもっていてもよいのではないかと合意した。金額にも異論は出なかった（女性のセパレーツに疑問も出たが、ビキニではないことを説明したら納得された）。

カレンダーは、個々の予定を管理するためではなく、家族皆の予定を把握するのに必要。

町内会費は、三鷹市に住んだことのある参加者によれば三鷹では払ったことがない、賃貸だと大家さんが払うのではないかという意見が出て、不要となった。

送別会などは男性 20000 円では少ないので 30000 円が最低必要となった。年 4 回以上ある、40 歳ならば後輩より少ない金額を払うわけにはいかない。男性参加者主導で話し合われたが、女性参加者も同意した。（最低必要な額としては 30000 円で合意したが、参加者は実際にはもっと使っているといった様子もあった。）

妻へのプレゼントで 10000 円は、送別会に年間 30000 円で頑張っているのを考えれば高い。手作りの料理など、金額でなく気持ちで表せる部分もある。一度、不要という流れにもなったが、夫→妻だけでなく、妻→夫にも、それぞれ 1000 円くらいのちょっとしたものはあ

ってもよいのではないか、ちょっとしたものでも（フルボトルのワインなど）3000円くらいは計上してよいのではないかいう意見が出て、合意した。
プリンターインクに年間10000円は高い。質はよくないが、100均で買える。参加者のひとりは実際それを使っている。1年に、4色×4回で1600円くらい。他の参加者にはどのくらいの質のものかイメージできていないが、特に異論は出なかった。
プリンターの紙は年間500枚は多い。インターネットで検索した情報は印刷するより携帯に送ることが多い、しかし子どもがいるとFAXはよく使うということで、年間100枚となった。
電子レンジ用の台は、部屋の広さを考えるといらないのではないか、しかし電子レンジは重いのでそれなりの台は必要ではないかという意見が出て、食器棚を電子レンジの乗せられる大きさのものに変更することで合意。
冷蔵庫は426lのほうで合意した。500lは贅沢かもしれないが、共働きでまとめ買いが多いことを考えると300lは小さいとの意見。
掃除機はサイクロン式で合意。ただし、最低必要というより、ほぼすべての参加者がサイクロン式をほしいと思っているニュアンスもあった。
洗濯機は、子どもがいて共働きなら乾燥機付きが必要だと合意された。
コーヒーメーカーとミキサーは不要、電気ポットはT-falの1.2lくらいのもの（共働きなので日中の保温は不要）、ホットプレートは鍋物ができるものが必要。
電気ストーブではなく3畳分のホットカーペットが必要。
折り畳みテーブルは、不要という意見も出たが、ちょっとした事務作業をするのに食卓以外のものが必要と合意。ノートパソコンならばパソコンデスクは不要。
掛け時計は必要。電気傘は各部屋にひとつ（計3個）必要。玄関にライトは必要だが、電気傘は不要な造りになっていると想定。常夜灯は廊下もほとんどない2DKなら不要。
姿見は、男性参加者から場所をとるので不要という意見も出たが、女性参加者からは全身を見て身だしなみをチェックしたいという意見が多く出て、必要と合意された。
肌掛け布団、掛け布団カバー、冬用ボアシーツ、タオルケットは男女とも各1とすることで合意。
食器類は基本的に今の個数（本人用1＋来客用2）のままでOK。ワイングラスは不要。急須のほかにティーポットというより、ティーポットがあれば日本茶も紅茶もいれられるという意見が出た。水筒は、個人用ではなく家族用に1ℓのものが1つ必要。土鍋と卓上コンロは、鍋つきホットプレートがあるので不要。水切りざる、電子レンジ用蒸しざるは不要。はかりはアナログでよいので薄いタイプが必要。保存用びん、コーヒー用ドリップ、フィルターペーパーは不要。コーヒーはインスタントでよい。
三角コーナー、排水溝のごみ受け、シンク下に置くかごは不要。なべつかみ、なべしき、キッチンタイマー、料理用はさみは必要。テーブルクロスは厚手のビニール製で動きにくいものが必要。

ごみ入れは45lではなく20lでよい。ごみ収集の日までの間にごみを入れておける容器がベランダに必要だとの意見も出たが、週2回のごみ収集で、忘れずに出す生活を送ればよいことになった。6lのごみ箱はダイニング以外の各部屋に1つ、ダイニングは先ほどの20lのものがあればそれ以外は不要。
ゴム手袋の個数は1年に1組でよいという意見や、1か月に1組必要という意見が出た。食器洗いや風呂掃除で普段どれくらい使っているかにより、実感が大きく異なっていたようである。結局、季節ごとに1組で合意。
防災用品の必要性については合意されたが、非常食や簡易トイレが具体的に何個必要かは、参加者はわからないといった様子だった。そのためモデレーターが具体的に数を示して同意を求める流れとなり、非常食は1家族で12食、簡易トイレは2日分となった。
最終確認グループで湿気取りが新たに必要と提案された。年間9個。3個パック×3。
衣類、装身具、カバン等は全体的に駆け足で個数や値段を確認した。
男性には3000円程度の電気かみそりが必要。
女性の口紅は1本1000円台のものを1年に2本必要。カラーバリエーションがほしい。アイライナーは不要、アイシャドーは2000円のものを1年に1つ。
ハンドソープか手洗い石鹸＋石鹸皿のどちらか安い方でよい。
文房具は油性ペン2本、筆ペン1本、シャーペン2本必要。マジックペン、サインペン、鉛筆、鉛筆削り、色鉛筆は不要。
工具は2000円のセットを1つ。
生命保険は男性1000万円保障、女性は不要。
予備的な積み立ては家族で1か月あたり40000円。
献立は時間切れのため確認していない。

感想
今回の参加者は、意見を述べるが自分の主張に固執せず、他人から説得的な意見が出れば柔軟に同意する傾向があった。夫婦ともにフルタイムの共働きの生活もよくイメージされているようだった。また、男女ともほぼ同等に発言している印象があった。
モデレーターが最低必要の定義を何度も示していた点は、議論の方向性を定めるのに有効だった。昨年度は紙で配布していたのに対し、今回はフィルムで加工されたものを配布していたため、参加者の注目もいきやすかったようである。
住宅についての議論はやや時間がかかったため、最後は多数派（2DK）に対して少数派（3DK）が納得できるか確認するような形で話し合いを収束させた。少数派から異論は出なかったが、時間があればもっと意見が出てきたかもしれない。
子どもの動画を残すことは、今の親世代が子どもの頃には珍しかったと考えられるが、贅沢だといった意見は全く出ず、子どもの動画を残すことは最低必要とみなされた。パソコ

ンやインターネット利用と並び、現代社会で最低必要なものを考えることが自然に受け入れられていた部分である。
住宅を最初に決め、その中で最低必要なものを考えるという英国の方法にならっているが、そうすると日本ではスペースの制約により不要とか、小さいものが必要という意見が出てくることがある。
MIS 法では予算制約を考えないことが、モデレーターから参加者によく伝わるようになってきた。しかし、日本では最低必要なものを考える際に（単身者グループでの話し合いも加味すると）生活時間と居住スペースの制約が入り込む余地があり、この制約にどう対処するか（あるいは、対処しないほうが政策レリバンスの高い最低生活費になるか）はひとつの論点になると思われる。日本国内でも、都市部以外で MIS 調査を実施すれば、この制約の影響の仕方は変わるだろうか。
積立の使途のひとつは引っ越しであることが今回の話し合いで示唆されたが、それ以外は確認していない。耐久消費財とのダブルカウントを防ぐためにも、MIS では積立の使途を確認したほうがよいかもしれない。

親グループ最終確認グループ（男女混成）で気づいた点・感想等

山田篤裕（慶應義塾大学経済学部）

前回と異なり、今回は男女の参加者が交互に座っていただく形にした。女性の方が比較的発言が多くなると考えられたので、混ぜて座っていただくことで、女性の発言に引っ張られ男性も話すようになるのでは、という期待をもっての配置である。
男女混合で人数が多いせいか、モデレータから遠くに位置する人々の発言がやや少なかった。モデレータとしては、指名して発言をお願いするなどの工夫をしたが、それでも最後まで発言の頻度の濃淡が残ってしまった。ただし今回、男女間での発言の頻度の濃淡はなかった（今回、女性の半分は就業者）。
全般的に時間は限られていたが、非常に多くのトピックを時間内に話したい旨、会議途中に何度か伝えたのが功を奏したのか（たとえば、品目リストは 16 頁あったのだが、次の 10 分間で 3 頁進みたいので、積極的に発言していただきたい等）、ほとんどトピックガイドの時間割通りに進めることができた。
モデレータは前回（CBG）経験者の上枝先生を中心に、山田が補佐し、阿部先生、卯月先生、進藤さん、福山さんが記録を取る（PC、模造紙、A3 用紙）、必要な資料の貼り出しをする、という陣容であったが、途中で阿部先生が記録の係りから異動し、発言を促したり、頷きによる合意を確認したり、というモデレータ補佐に回った。上枝先生と山田は、時間

がかなり限定されているあまり、A3 用紙の品目表に目を落としている時間がどうしても相対的に長くなり、頷きによる合意と単なる沈黙を瞬時に判断するのがかなり難しい状況に置かれていた。こうした 3 人体制のモデレータにより、何とか大量の確認事項を時間内に切り抜けることができた。
ただし事前の予想通り、耐用年数、夫婦間の共通品目の洗い出し、献立表については休憩時間を 10 分から 5 分へと切り詰めたが、議論することはできなかった。いずれにせよ、夫婦での共有品目と個別保有品目を切り分け、夫婦と子どもとを合算した世帯単位での MIS を FCB する工程が別途必要だと思われる。
参加者の意見が分かれることもあったが、比較的スムーズに合意に達したように思われる。モデレータの方でも、自分の経験を話し始めたと感じた際には、ラミネート加工された最低生活の定義をかざして、この基礎的な生活に最低必要と考えるならばどうか、と何度か問いかけた。また、議論の最初の方で「切り詰めるとすると…」と話し始める参加者もいたので、この生活をずっと続けたとしても無理のない、基礎的な生活に最低必要と考えるならばどうか、と補足などを適宜行ったことも、MIS の定義を共有して頂くことに一役買ったように思う。
モデレータ側で一番、懸念されたのは冒頭の住居の間取りで紛糾することであった。実際、議論の冒頭で、来客を宿泊させるため 3DK は必要、とか子どものために一部屋与えたいので 2LDK 以上、などの意見が、2DK で十分という意見と共に出た。こうした意見についてモデレータ側で、子どもの MIS では子供部屋は中学以上でしか必要としないことを決定したこと、また来客を宿泊させることが MIS の定義として相応しいと考えるべきか、ということを投げかけた。この問いかけに対して、2LDK 以上ということを主張する意見がやや弱まり、さらに間取りにもよるという意見が出たので、その頃合いで 2DK の間取りを 5 つ貼りだした。その結果、玄関からリビングが見えない、部屋がある程度広く、独立しているということから、2DK の物件（家賃約 12 万円）でも良い、ということで合意することができた。
この 2DK の間取りが確定できたことで、2DK の間取りを前提に組んでいた、(配布された) 品目表全体を見直すという作業はなくなり、モデレータ側では未決定の紫色の部分の要・不要の有無、個数などに集中することができた。
品目リストは議論すべき項目の吹き出しメモ付で、議論する順番に並べられていたおかげで、効率的な議論に大いに役立った。いかに事前準備に負うところが大きいか再確認させられた。
交際費については、年齢から考えて、男性の 2 万円は少ないのでは（部下などがいることを考えると）ということで 3 万円になり、また（女性側からの意見として）男性が 3 万円の交際費で頑張っているのだから、妻へのプレゼントの 1 万円は多すぎるのでは、という流れになった。その結果、お互いに 3000 円ずつ、記念日に特別な料理、ちょっとした花束、飲み物などに充てるということになった。

家の大きさの制約があり、コーヒーメーカー等は不要という事になった。前年度の単身グループと同じく、日本の場合には選択した家の制約により、持ち物が規定される側面が（イギリスの場合より）強いように思われる。
男女混成にしたことは、たとえば女性では挙がっていなかった文房具の一群の要不要を考えている間に、男性では個数が定まっていないところを議論するなど、交通整理を適宜行う事で、それほど議論の錯綜を招くことはなかった。むしろ、これは夫婦共有で良いかなども適宜確認することもでき、この段階で男女混成にするのはたんなる時間節約以上の重要な意味があると思われる。
非常用用品で、3 日間はライフラインが復旧しないことを補足したが、家族 3 人で非常食 12 食（つまり 1 日程度しかもたない）でも良いということで合意した。
予備的な積立の為の貯蓄は、これまでの議論で参加者から出ていた、将来子どもにかかる費用や、引っ越しなどを考えてということで決められた。参加者の一人（今回、男性で最も良く発言していた）、これまでのグループで上がっていた男性 3 万円と女性 1 万円を、単純に合計して 4 万円でどうか、という提案に賛成する形ですんなり決まった。もう少しどのような目的で貯蓄が必要なのか聞いておくべきであった。

以上。

親のニーズ最終確認グループ（男女混成）の課題

阿部彩（国立社会保障・人口問題研究所）

【全体】
・今回は最終確認グループ（第３回目のグループ）であるが、総額が提示できなかったことと、メニューについて話ができなかったこと、「加藤家」の合体リストが、必ずしも明確に提示されなかったこと、から、もう一度グループを実施することが望ましいのではないかと考える。そこには、健一さんのニーズ、由美さんのニーズ、子どものニーズ、共有のニーズを色分けし、全体像を把握できることが望ましい。これまでは、単身世帯であったので、このようなステップは不要であったが、世帯でのニーズとなった時にはこのステップが必要になるのではと考える。

【ケース・スタディの設定】
・筆者が参加した第 1 回のグループの話し合いにおいては、「親のニーズ」と「子どものニーズ」が一部混同されている感があったが、今回のグループにおいて、比較的にそのような混同がなかった。さらに言えば、この加藤夫婦が子どもを持っているということを感じさせるアイテムはほとんどなかったといってもよい。それは設定したケース・スタディが、加藤健二さん（４０歳）、由美さん（３８歳）、小５の子ども、というものであり、

③子どもを持つ親　（調査報告）

子どもの年齢が比較的に高かったため、「親としての特別なニーズ」があまりない設定であったのかも知れない。結果として、「親のニーズ」を規定しているのが「年齢」（「健二さんは、４０歳だから、～」）、「共働き」（「共働きだから、洗濯乾燥機は絶対必要」）の２点であったかと思う。小５の子どもであれば、習い事や塾（小５のニーズとして塾があったかどうか調べること！）、勉強や宿題を見る必要、野球やサッカーチームの付添、PTA 活動などあると想像されるが、それらに付随する親のニーズはないということなのか。この点は、もう一度グループを実施して、確認したいところである。

・今回、最初から「由美さんはフルタイムで働いている」という点を明確にしたため、由美さんのニーズは比較的にスムーズに決まったように思う。しかしながら、どのような仕事についているかをあえて「未設定」にしていたため、たとえば、スーツなどについては、判断が難しかったようである。

【グループの運営について】
・今回は最終確認グループであり、時間的に制約もあったことから、すでに合意に達している項目については、飛ばして話を進めた。そのため、時間内にリストをカバーすることができたものの、一方で、参加者が「加藤家」の持ち物をすべて把握していないのではないかという疑念が残った（また、その反対に、「これしかない」ということが認知されていない可能性）。もし、時間が許せば、リストの項目を合意されているものであっても読み上げることができたら、よかったかも知れない。

・また同様に、小５の子どもの決定済リストもそばにあって、一遍、レビューしたほうがよいかも知れない。例えば、旅行や家族の活動などについての言及はほとんどなく、議論がかなり「個人ベース」となっていた感がある（「健一さんのニース」「由美さんのニーズ」を強調しすぎたのかも知れない。親としての健一さん、由美さんのニーズもある、という点も言った方がよい）

・グループのダイナミックスとしては、意見の違いが最初あったとしても、お互い妥協するところがあり、また、モデレーターの方からも「〇〇の意見のかた、これで妥協できますか」といったような投げかけも多くしたため、合意にいたった。その点で、真の意味での「合意形成」ができたように思う。男女共同で行ったことも、これに寄与したかも知れない。

・人数的には、少々多すぎたと思われる。発言が少ないグループであれば、これくらいの人数は逆に必要となってくるが、この回の参加者は、言葉少な目の人であっても、投げか